『コミュニティ心理学研究』執筆・投稿のてびき（2018 年 5 月 13 日改定）

１．原稿作成および投稿

論文の長さは、図表を１ 枚 500 字として換算して原著論文および総説は 20,000 字以内、資料論文は 10,000 字以内である。原稿は、学会所定の論文用テンプレートを用い、A４用紙を縦に使い、１ページ、32 字×25 行（800 字）で作成する。作成した原稿は、電子投稿システムを通じて、日本コミュニティ心理学会編集事務局に送付する。ただし、電子投稿システムの稼働開始までの期間は、電子メールに MS-WORD 形式のファイルを添付して編集事務局に送付する。

原稿提出の際には、投稿チェックリストも添付する。投稿チェックリストは、随時「コミュニティ心理学研究」に掲載されるが、日本コミュニティ心理学会ホームページからダウンロードすることもできる。なお、掲載が決定した場合の最終稿については、別紙「最終原稿の作成について」に従って作成し、編集事務局に提出する。

２．表紙

表紙は、本文と独立して以下の２ ページを作成する。

１ページ目には、論文種別(原著(調査研究・実践研究)、総説、もしくは資料)の他、題名・著者名・著者所属機関の順に、日本語・英語の両方で記載する。最後に著者連絡先の住所・電話番号・E-mail アドレスを明記しておく

２ ページ目には、英語を母国語とする者の査読済みの英文アブストラクト（200 語程度）、および論文内容を表す英語・日本語両方の key words（3～5 個）を記載する（アカデミック エッセイ・書評についてはこの必要はない）。

３．本文

本文中では、極端に細かな章・節の区分を避ける。

略語は初出時にフルスペルを記し、その後の(　)内に略語を記載すること。同意語や類似概念の混在を避け、名称や用語が統一すること。

図表は、それぞれに通し番号を付け、本文中に「図１を挿入」のように、挿入箇所のみを明らかにする。図表自体は、１枚の用紙に１つずつ図または表を書き、本文の最後に添付する。

注や謝辞については、煩雑にならない程度に脚注形式を使用する。なお、投稿者個人が特定されるような情報は、採択後に記載すること。通し番号を付け、本文中には番号を当該箇所の右肩に付ける。注や謝辞自体は、本文とは別に、１枚の用紙に通し番号順に書き、論文に添付する。

本文中、特定の活字での印刷を希望する箇所にはその旨朱記する（例えば、「ギリシャ文字」など）。なお、本文中の数式は、関数記号以外はすべてイタリックで印刷される。

４．本文中の引用

本文中に引用される文献の形式は、以下の例に従うこととする。引用著者名には必ず原語を使用し、カタカナ表記はしない。当該文献の著者が３名以下の場合には全員、４名以上の場合には３人目まで書き、４人目から et al.（日本語文献の場合は“ほか”）とする。

[記載例]

◎本文中主語：

・ 星野(1995c,1996a)は、・・・

・ 山本・村瀬・安藤(1969)によれば、・・・
・ Iscoe, Bloom & Spielbergar(1977)は、・・・
・ Bennet, Anderson, Cooper et al.(1966a, 1966b)は、・・・
◎文末引用（括弧）：
・・・・である(田中, 1976)。
・・・・と言える(植村・平川・北島, 1990)。
・・・・であろう(Lewis & Lewis, 1977)。
◎括弧内での文章形式の引用：
・・・・と言える(詳細は、渡辺・高橋, 1994; 高橋・渡辺, 1995 を参照)。
◎括弧内連続引用（アルファベット順）：
・・・・である(Jacobson, Labbock, Parker et al., 1989; 佐藤, 1992a, 1992b)。

５．引用文献

本文中に引用した文献等は、論文末尾に一括して以下のように示す。

1. 各文献は筆頭著者名のアルファベット順（同一著者の場合は発表順）に記載する。
2. 著者氏名は、全員の氏名を省略せずに記す。
3. 欧文・邦文とも雑誌名は略称しない。
4. 欧文引用文献の出典はイタリック（斜体）で示す。また、雑誌巻数はボールド（太字）で示す。学会報告に関しては、当該大会公式報告（発表論文集、抄録集）が発行された場合には、その掲載頁数を明らかにする。

詳細は以下の例を参照すること。

[記載例]

◎外国語論文：著者名 発表年度 論文題名. 雑誌名, 巻数(号数), 開始頁-終了頁.

Grubb, H. J. 1988 The role of community psychology in the community. *Journal of Clinical Psychology*, **44**, 606-610.

Garnets, L. D. & D'Augelli, A. R. 1994 Empowering lesbian and gay communities: A call for collaboration with community psychology. *American Journal of Community Psychology*, **22**, 447-470.

Sarason, B. R., Sarason, I. G., Hacker, T. A., & Basham, R. B. 1985 Concomitants of social support: Social skills, physical attractiveness, and gender. *Journal of Personality and Social Psychology*, **49**, 469-480.

◎外国語書籍：著者名 発表年度 書籍名. 出版社所在地: 出版社.

Bennet, C. C., Anderson, L. S., Cooper, S., Hassol, L., & Rosenblum, G. (Eds.) 1966 *Community psychology: A report of the Boston conference on the education of psychologists for community mental health*. Boston: Boston University Press.

Choen, S., Mermelstein, R., Kamarck, T., & Hoberman, H. N. 1985 Measuring the functionalcomponents of social support. In I. G. Sarason & B. R. Sarason(Eds.) *Social support: Theory, research and applications*. 73-94. Dordorecht: Maltinus Nijhoff Publishers.

Wicker, A.W. 1984 *An introduction to ecological psychology*. Cambridge: Cambridge University Press. (安藤延男(監訳) 1994 生態学的心理学入門 九州大学出版会.)

◎日本語論文：著者名 発表年度 論文題名. 雑誌名, 巻数(号数), 開始頁-終了頁.

高橋直 1996 ある商店街におけるゴミ捨て行動への介入の試み. 心理学研究, **67**, 94-101.

久田満・箕口雅博・千田茂博 1986 ソーシャル・サポートのストレス緩和効果. 日本心理学会第 50 回大会発表論文集, 729.

丹羽郁夫 1998 境界性人格障害へのデイケアに関する研究の展望. コミュニティ心理学研究, **2**(1), 44-55.

◎日本語書籍：著者名 発表年度 書籍名 開始頁-終了頁. 出版社名.

星野命・山本和郎(編) 1976 臨床心理学講座 8－社会文化の変化と臨床心理学 誠信書房.

山本和郎 1986 コミュニティ心理学－地域臨床の理論と実践 東京大学出版会.

安藤延男(編) 1989 現代のエスプリ 269－コミュニティの再生 至文堂.

植村勝彦 1985 社会生活ストレスの構造. 山本和郎(編) 生活環境とストレス 222-267. 垣内出版.

◎インターネット上の資料：著者 アップデート年 資料名. サイト名 URL （アクセスした日）

厚生労働省 2009 社会保障審議会子ども虐待に関する専門委員会報告.
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/dv37/index.html (2009 年 12 日 17 日取得)

◎新聞および雑誌の記事：掲載紙名 発行年 資料名. 発行日と朝刊/夕刊.

毎朝新聞 2011 21 世紀はコミュニティの時代. 5 月 28 日朝刊.

６．図表作成

末尾に付される図表については、1 枚の用紙に 1 つのみ記載する。図表のそれぞれには通し番号を付け、表の題名は表 1、表 2…として表の上部に、図の題名は図 1、図 2…として図の下部に書く。図表は原則として 1 枚 500 字として換算し、全体の字数制限を超過しないように留意する。なお図表が不鮮明であったり、不適切であったりした場合、書き直しを求めることがある。

７．論文作成に関するその他の注意事項

1. 数字は原則的に算用数字(半角)、計算単位は国際単位系(SI)を用いる。

2. 原則として、研究対象者にインフォームドコンセントを行い、成果の公表において対象者その他の関係者の承諾を得ていなければならない。その他、論文の内容と研究の手続きは、「日本コミュニティ心理学会倫理綱領」に準じていなければならない。

８．著者校正および別刷

著者校正は原則として初稿のみとする。掲載された論文には、掲載誌 1 部を進呈する。別刷りについては著者負担とする（著者校正時に 50 部単位で希望部数を申請すること）。

９．原稿締切日について

投稿原稿の締切日は特に設けない。掲載が決定した論文から順次掲載する。なお、発刊は原則として、9 月と 3 月とする。